（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人　日本厚生学園　りんどう学園			
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日	～	令和7年1月31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	14名	（回答者数）	14名
○従業者評価実施期間	令和7年1月6日	～	令和7年1月31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	4名	（回答者数）	4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間が、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備がバリアフリー化や情報伝達等への配慮を行っている。	・トイレカードを各クラスに貼っていたり、１人１人にマークを使ったりしている。 ・個別で行う訓練室と、集団活動を行う発達支援室が別々になっている。	・使用するマークを、事前に保護者や職員に周知しておく。
2	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、発達の状況や課題について共通理解ができている。	・連絡帳で毎日子どもの様子を伝えている。 ・バスを降りるときに、今日の様子を伝えている。	・様々なアセスメントツールについて調べて、必要であれば取り入れていく。
3	職員の質の向上を目指している。	・研修に参加した職員が、その内容を他の職員に伝えている。 ・ティーチャーズトレーニングや強度行動障害支援者養成研修などを受講している。	・職員間での研修は継続しつつ、今後は外部の研修の機会を増やしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他の放課後等デイサービス事業所との交流や活動する機会が不足している。	・地域交流交歓大会、こどもまんなか冬まつりなど、他の放課後等デイサービス事業所と活動する機会は設けている。	・他の放課後等デイサービス事業所と交流する機会を増やすことを検討する。 ・利用日ではない日の交流もあったため、利用日に交流する機会を設けることを検討する。
2	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用する機会が少ない。	・アセスメントツールに対する理解が不足している。	・様々なアセスメントツールについて調べて、必要であれば取り入れていく。
3	活動プログラムが固定化しないように工夫することが不足している。	・活動プログラムの内容ができるかできないかで、実施する内容を決めてしまっている。	・活動プログラムの内容ができる、できないに分けてしまうのではなく、段階的な達成を体験できるようにする。